

平成**31**年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

中学校 国語

令和元年 7月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	3
(5) 調査日時	3
(6) 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置に伴う対応に関して	3
(7) 集計児童生徒・学校数	4
(8) 調査結果の解釈等に関する留意事項	6
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の内容，課題等，指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 地域の規模等の状況	12
(4) 都道府県・指定都市の状況	12
(5) 教育委員会の状況	13
(6) 学校の状況	13
(7) 国・公・私立学校の状況	14
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	15
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	16
(2) 中学校 国語	19
① 情報を読む（新聞）	20
② 話合いをする（文化祭）	35
③ 意見文を書く（地域の店）	42
④ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学，英語〕

国語，算数・数学，英語はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

英語においては，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」，「書くこと」に関する問題を出題。

※調査問題は現行の学習指導要領（平成20年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・カリキュラム・マネジメントなど，学校運営に関する取組状況
- ・教職員の資質能力の向上
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・各教科の指導方法

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し，平成30年度より，毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し，質問項目数を選定。

(4) 調査の方式
悉皆調査

(5) 調査日時
平成 31 年 4 月 18 日 (木)

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

【中学校調査】 (例：6 学級の場合)

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
国語 (50 分)	数学 (50 分)	英語 「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」 (45 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度) 等	英語 「話すこと」 (1 組, 2 組, 3 組)	英語 「話すこと」 (4 組, 5 組, 6 組)

<補足>

※「話すこと」調査の所要時間は、1 学級当たり 5 分 (準備や移動に要する時間を含み 15 分) 程度。
※原則として、同一学級の生徒を一斉に、かつ、調査対象学年の生徒全員が 3 単位時間以内で調査を行う。(学級規模等により「話すこと」調査の所要時間が 5、6 時限目で収まらない場合は、4 時限目も「話すこと」調査の実施に充てることができる。)

(6) 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置に伴う対応に関して
実施要領 7. (3) のとおり、英語の調査結果としては、「聞くこと」、「読むこと」、
「書くこと」の合計を集計。

【抜粋】平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領 (平成 30 年 12 月 14 日付)

7. 中学校の英語のうち、「話すこと」に関する問題の実施にかかる特例的な措置

英語「話すこと」に関する問題は、初めて各学校のコンピュータ教室等の PC 端末等を活用し、音声録音方式で実施するものであり、各学校の ICT 環境が様々であることから、平成 31 年度に限り、特例的な措置として、以下のとおり、取り扱うこととする。

(1) 「話すこと」に関する問題については、設置管理者が各学校の ICT 環境の整備状況を把握し、各学校の状況を十分踏まえた上で、検討し、設置管理者の判断により学校単位で「話すこと」に関する問題を実施しないこととすることができる。

(2) 「話すこと」に関する問題の実施状況については、調査実施後に文部科学省において確認の上、実施校の全国総数のみを公表する。

(3) 中学校英語調査の結果については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また、「話すこと」に関する問題の結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。

(4) 上記 (1) により「話すこと」に関する問題を実施しなかった学校においても、「話すこと」に関する問題及び調査結果を活用した授業改善が行えるよう、調査実施後すみやかに、調査問題、正答例、問題趣旨及び解答類型を公表する。

(7) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、平成31年4月18日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数※1	4月18日に調査を実施した児童数※2	【参考】 4月18日～5月7日に調査を実施した児童数
公立	1,062,730人	1,028,203人	1,036,624人
国立	6,468人	6,273人	6,322人
私立	12,663人	6,030人	6,668人
合計	1,081,861人	1,040,506人	1,049,614人

(中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数※1	4月18日に調査を実施した生徒数※2	【参考】 4月18日～5月7日に調査を実施した生徒数
公立	1,002,814人	938,888人	943,028人
国立	10,698人	9,894人	10,384人
私立	79,068人	28,588人	29,652人
合計	1,092,580人	977,370人	983,064人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、平成30年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校, 義務教育学校前期課程, 特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月18日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月19日～5月7日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月18日～5月7日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	19,299校	19,263校 (99.8%)	12校	19,275校 (99.9%)
国立	75校	75校 (100.0%)	0校	75校 (100.0%)
私立	226校	117校 (51.8%)	7校	124校 (54.9%)
合計	19,600校	19,455校 (99.3%)	19校	19,474校 (99.4%)

(中学校, 義務教育学校後期課程, 中等教育学校前期課程, 特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月18日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月19日～5月7日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月18日～5月7日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,572校	9,513校 (99.4%)	32校	9,545校 (99.7%)
国立	80校	77校 (96.3%)	3校	80校 (100.0%)
私立	757校	360校 (47.6%)	10校	370校 (48.9%)
合計	10,409校	9,950校 (95.6%)	45校	9,995校 (96.0%)

(8) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学、英語ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
相関係数	二つの変数間の関係の程度を一つの数値で表す指標。相関係数は、-1から1までの範囲の値をとり、1に近いほど正の相関、-1に近いほど負の相関が強いことを表す。
解答類型	各設問についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の内容，課題等，指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（3領域1事項）に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く。
- 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていなことを」について自分の考えを書く。
 - 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。
 - 語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する。

○課題等

話すこと・聞くこと

- ◇◆ 話合いの話題や方向を捉えることはできているが、それを踏まえて自分の考えをもつことに課題がある。〔2一、三〕

書くこと

- ◇ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することはできている。〔3一〕
- ◇◆ 自分が伝えたいことについて資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くことはできているが、自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くことに課題がある。〔3二〕

読むこと

- ◇ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことはできている。〔1三〕
- ◆ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。〔1一、二〕

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することはできている。〔4〕
- ◆ 封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くことに課題がある。〔1四〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 []内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

○ 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導の工夫

- ・ 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる力を身に付けるために、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関連を図って指導する必要がある。例えば、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動や、互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。その際、自分の考えが分かりやすく伝わるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すように指導するとともに、他の人の話を聞きながら、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理するように指導することなどが大切である。学習指導要領においては、話し合いを通じて自他の考えを豊かなものにし合意形成を目指すことについて、第1学年では話し合いを通じて自分の考えをまとめること、第2学年では話し合いを通じて自分の考えを広げること、第3学年では話し合いを通じて課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うことを示しており、生徒の実態を踏まえながら意図的・計画的に指導を重ねることが重要である。

書くこと

○ 目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く指導の工夫

- ・ 目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く力を身に付けるために、第1学年では根拠を明確にして書くこと、第2学年では相手に効果的に伝わることを意図して、説明や具体例を加えたり描写を工夫したりして書くこと、第3学年では論理の展開を工夫するとともに資料を適切に引用するなどして書くことなどについて指導する必要がある。その際、小学校での学習を踏まえ、自分の考えの根拠として用いる情報が適切であるかどうかについて検討したり、自分の考えとどのような関係があるのかが分かるように記述したりするように指導することが重要である。

読むこと

○ 文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える指導の工夫

- ・ 文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える力を身に付けるために、文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読むように指導する必要がある。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するように指導することも効果的である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○ 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く指導の工夫

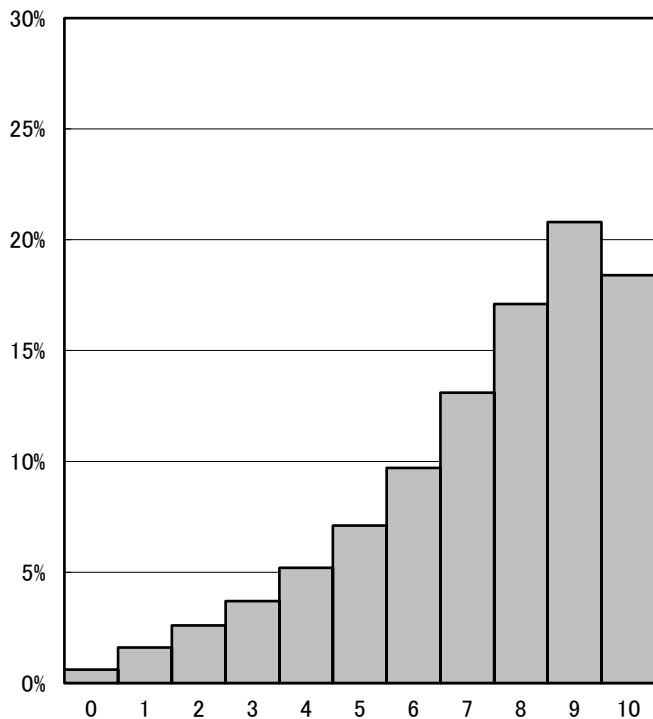
- ・ 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く力を身に付けるために、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して適切に設定して指導するとともに、書写の能力を学習や生活に役立てるように指導する必要がある。例えば、学習ノートに記録したり掲示文などを書いたりする場合、手紙などの通信文を書いたりする場合などにおいて、形式や内容に留意して書くように指導することなどが考えられる。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

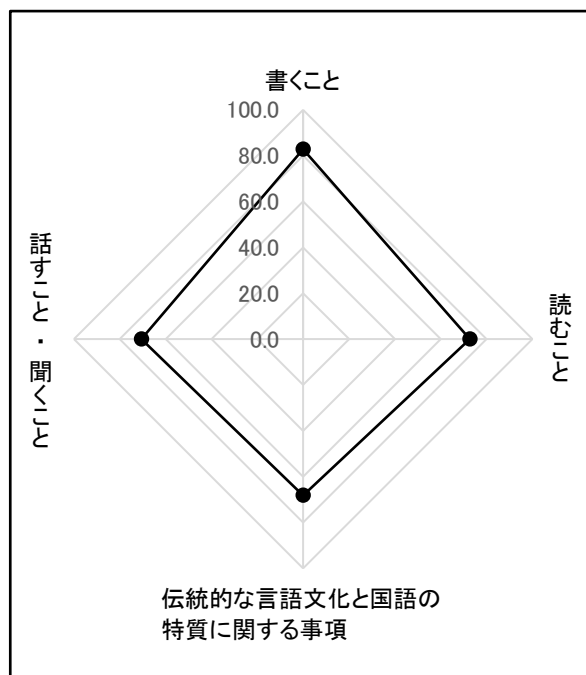
【国語】

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
977,270 人	7.3 問/10 問	73.2%	8.0 問	2.4	9 問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



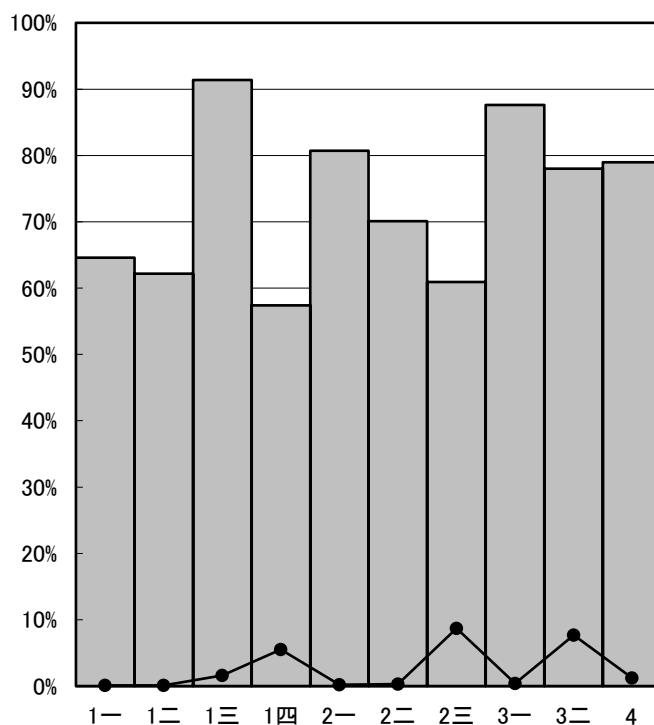
学習指導要領の領域等の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.6
	書くこと	2	82.8
	読むこと	3	72.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	68.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	76.8
	話す・聞く能力	3	70.6
	書く能力	2	82.8
	読む能力	3	72.7
	言語についての知識・理解・技能	2	68.2
問題形式	選択式	6	74.0
	短答式	1	57.4
	記述式	3	76.8

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸: 問題番号, 縦軸: 生徒の割合)



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				(参考※) 従来の区分			問題形式	正答率(%)	無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題				選択式	短答式
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものと適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ			2ウ						○	○	○	○			64.6	0.1
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1イ						○	○	○	○			62.2	0.1
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているもの見方や考え方について、自分の考えをもつ			1オ	○				○		○		○			91.3	1.6
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア							○	○	○	○		57.4	5.5
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ							○		○	○	○			80.7	0.2
2二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する	1ウ							○		○	○	○			70.1	0.3
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	1オ			○	○					○		○			60.9	8.7
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する		2エ							○	○	○	○			87.6	0.4
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	1ウ			○				○			○		○		78.0	7.7
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、語や文章の中での適切な活用の仕方を理解する			1(1)イ(ウ)							○	○	○	○		79.0	1.2

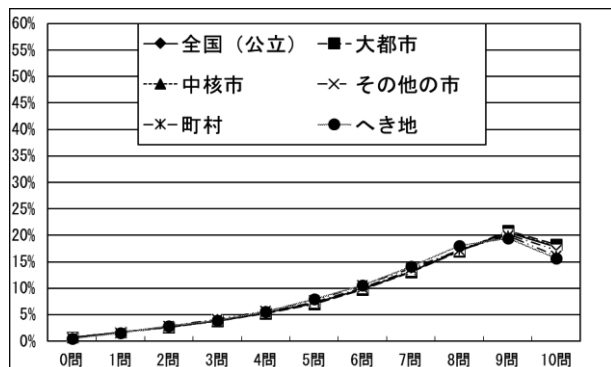
※過年度からの継続的な分析に資するため、参考として設けた。

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数, 平均正答率, 中央値, 標準偏差を見ると, 地域の規模等(公立:大都市, 中核市, その他の市, 町村, へき地)による大きな差は見られない。

[国語]

正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:生徒の割合)



	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4
大都市	229,984	7.3 / 10	73.1	8.0	2.4
中核市	164,059	7.3 / 10	72.9	8.0	2.4
その他の市	449,864	7.2 / 10	72.4	8.0	2.4
町村	84,997	7.2 / 10	71.8	8.0	2.4
へき地	12,547	7.2 / 10	71.9	8.0	2.3

※大都市(政令指定都市及び東京23区), 中核市, その他の市, 町村の値は, 当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果(正答数)を集計したものである(都道府県立学校は含まない)。

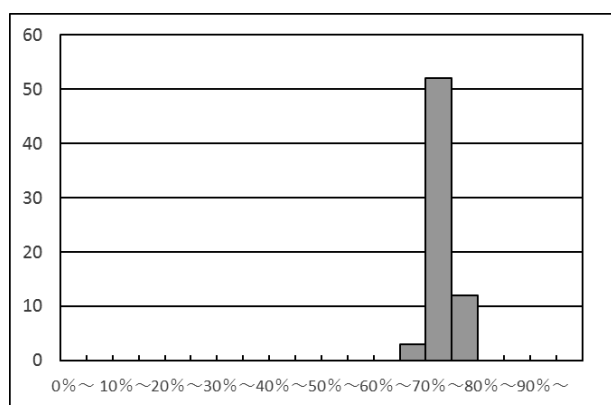
※へき地の値は, へき地教育振興法及び各都道府県の条例(規則)によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市, 中核市, その他の市, 町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市(公立)の状況については, 平均正答率を見ると, 全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内にあり, 大きな差は見られない。

[国語]

正答率分布グラフ(横軸:平均正答率, 縦軸:都道府県・指定都市数)



全国(公立)の平均正答率	全都道府県市(公立)中, 最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市(公立)中, 最低平均正答率【全国との差】
73%	78% 【+5%】	68% 【-5%】

※都道府県は指定都市を除く。全国(公立)の平均正答率は整数値で表示している。

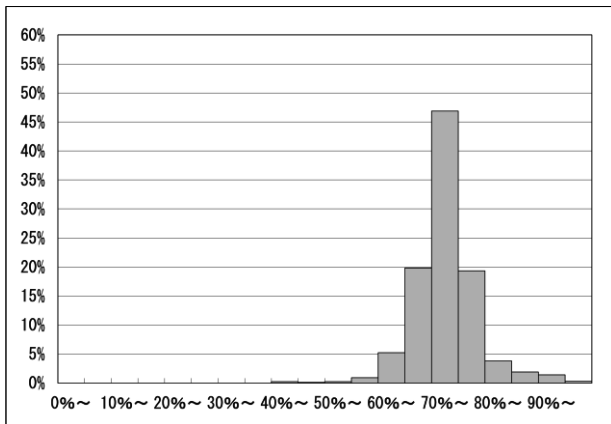
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率 (%)	教育委員会の中央値 (%)	教育委員会の標準偏差
1,791	7.3 / 10	72.6	72.5	5.8

正答率分布グラフ (横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合)



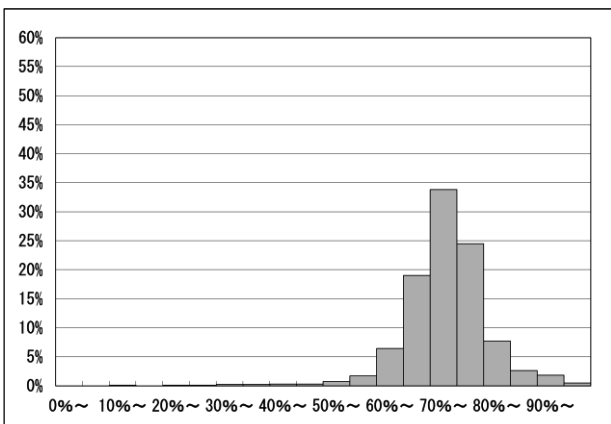
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率 (%)	学校の中央値 (%)	学校の標準偏差
9,948	7.3 / 10	72.7	73.0	8.3

正答率分布グラフ (横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合)

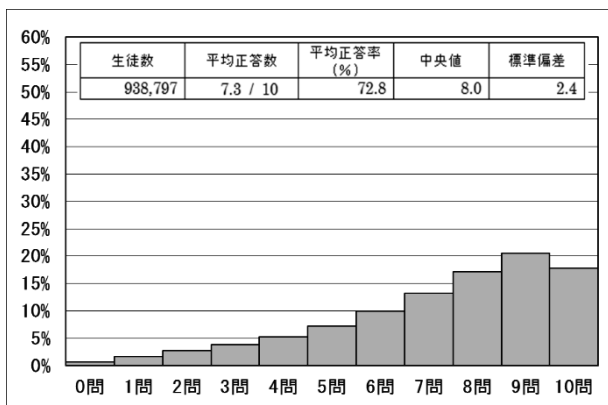


(7) 国・公・私立学校の状況

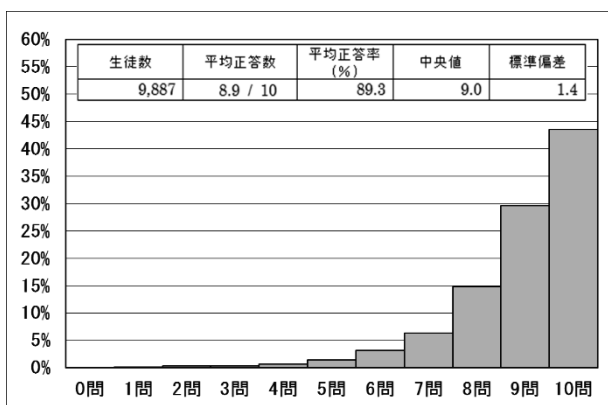
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[国語]

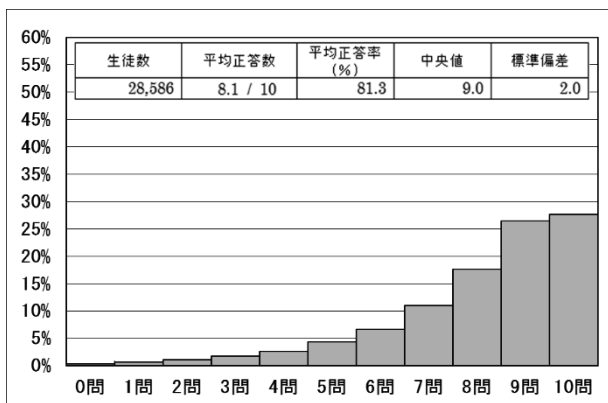
＜公立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



＜国立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



＜私立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像
調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨
問題ごとに、出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨
問題ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。
■学習指導要領における領域・内容
 調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

1. 解答類型と反応率
解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

教科名○

問題画像

出題の趣旨

設問○
趣旨

■学習指導要領における領域・内容
(第○学年)

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
○	1	◎
	2	
	3	
	4	
	99 上記以外の解答	
	0 無解答	

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に注目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>
 「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答
 「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※ 反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。

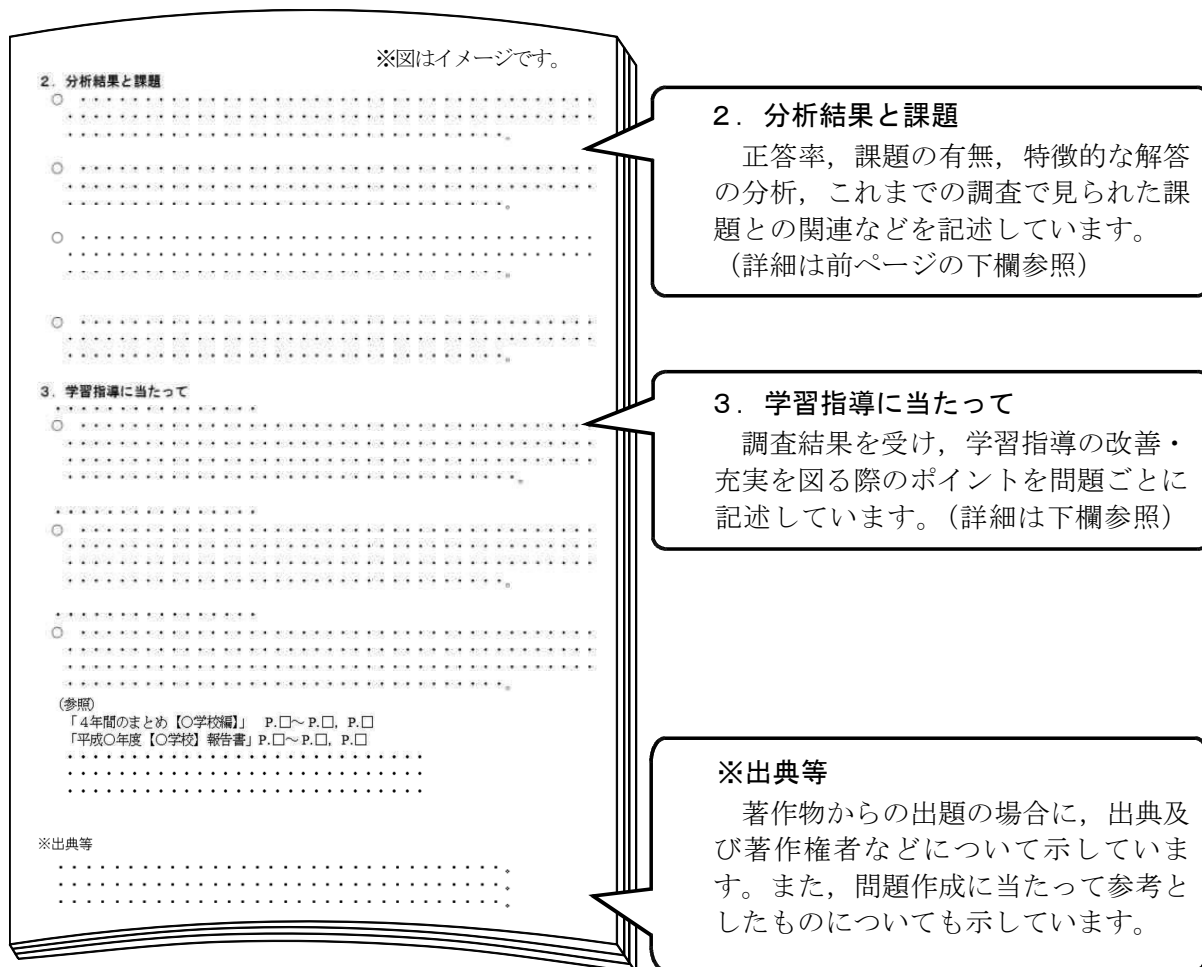
分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連

など

-16-



学習指導に当たって

調査問題に関係する領域・内容について，各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。また，本書のほか，授業の改善・充実を図る際の参考となるように，授業のアイディアの一例を示すものとして「授業アイディア例」(本年8月下旬公表予定)を作成しますので，本書及び「解説資料」(本年4月公表)と併せて御活用ください。

なお，関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など，これまで作成した資料の該当ページを記載していますので，これらの資料も併せて御活用ください。

本書では，以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～【○学校編】」(平成24年9月発行)	「4年間のまとめ【○学校編】」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【○学校版】」(小学校:平成23年10月発行/中学校:平成24年6月発行/高等学校:平成26年2月発行)	「言語活動事例集【○学校版】」

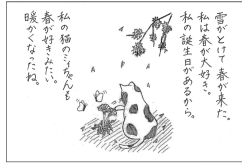
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(2) 中学校 国語

声の広場



(中2・野球大好き)



(中3・こねこ)

みんなの短歌

今回は、新年度を迎えたフレッシュな心境を表現した作品が集まりました。

目が覚めるシリシリと鳴る前に胸が高鳴る入学の朝
中一 泉 あきら

【選者より】「シリシリと鳴る前に」と「胸が高鳴る」という表現から、いつもは目覚まし時計の音で起きているのに、この日の朝は、胸がどきどきして目覚まし時計が鳴る前に起きてしまったことが想像できます。入学式の朝は、新しい生活に思いを巡らせて、落ち着かない気持ちになるものです。

新しいノート教科書取り出して背筋伸ばして始まりを待つ
中一 内山 誠一

玄関の鏡の前でもう一度前髪笑顔半タン笑顔と
中二 森川 りか

春風がいつもの道を駆け抜ける背の足取り自然と軽く
中三 松田 花子

■投稿先
〒100-6543 東京都千代田区中央3
全国中学生新聞「声の広場」係
FAX 000-123-xxxx
メール zenkoku@xxxx.xx

▼イラストははがき大。「みんなの短歌」は1通に2首まで。
▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。イラストはペンネーム可。

海外に広がる弁当の魅力



カスクルト

(シリーズ)再発見! 日本の文化

日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。例えば「弁当」(bento)、「漫画」(manga)、「俳句」(haikai)、「盆栽」(bonsai)、「折り紙」(origami)は、英語やフランス語などの辞書に載っており、海外でも取り入れられていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたってその魅力を紹介していきます。第一回は、弁当です。

アメリカのポックスランやフランスのカスクルトなど、日本の弁当のように戸外持ち出しで食べることでできる食事は、昔から各国にあり、それぞれの国で親しまれています。そのような中、日本の弁当が海外の様々なメディアで取り上げられたり、国際的な弁当のコンクールが開催されたりと、海外でも注目を集めています。私たちの身近にあり、特別なものではない弁当が、今、海外で話題になっているのです。

弁当の魅力は、小さな箱の中にいろいろな料理が詰められていることで、主菜、副菜、時には果物までがきれいに取まっています。そのため、栄養バランスがよい食事として、健康志向の高まりとともに、海外でも注目されるようになったのです。トマトの赤や卵焼きの黄色などをうまく並べて、鮮やかな色合いになるように工夫された弁当を見て、「まるで宝石箱のようだ」と言う海外の方もいます。

また、様々なデザインの花柄やキャラクターの弁当箱を好んで選ぶことも、弁当の魅力の一つです。例えば、フランスのデパートの食器売り場でも、おしゃれなカラフルな弁当箱がたくさん売られています。さらに、料理をおいしく食べるための優れた機能をもつ弁当箱もあります。例えば、日本に古くからある「曲げわっぱ」という木製の弁当箱は、木が湿気を吸うので料理が腐りにくく、食べ物の風味が保たれるという利点があります。美しい木目や色合い、「曲げわっぱ」なども楽しめる「曲げわっぱ」は、海外でも広く知られています。

弁当は、誰かのために作ったり、皆で持ち寄って和気あいあいとした雰囲気ともあります。こうした

1 2 3 4 5 「弁当」

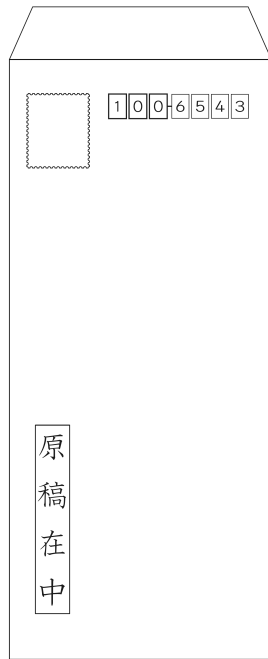
曲げわっぱの弁当

全国中学生新聞

1 問題用紙Ⅱの「全国中学生新聞」を読んで、あとの問いに答えなさい。

- 「(シリーズ)再発見! 日本の文化」にある、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です」という文章 [] で囲まれた部分) について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
 - 日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。
 - このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
 - 「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
 - 外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。
- 二 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを、次の1から5までの中から、**全て**選びなさい。
- インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。
 - 主菜、副菜などが取まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。
 - ポックスランやカスクルトなどは異なり、戸外に持ち出して食べることができる。
 - いろいろな料理が詰められているので、食べ物の風味を保つことができる。
 - 様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。

- 「みんなの短歌」に掲載されている内田さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び()の短歌を選んでください。()、その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、「選者より」を参考にしながら、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
 - なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
 - 条件1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。
 - 条件2 条件1で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。
- ※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。



※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。
条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。「全国中学生新聞」に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書^{かぎ}でていねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

選んだ短歌

- Ⓐ 内山さんの短歌
- Ⓑ 森川さんの短歌
- Ⓒ 松田さんの短歌

← 選んだ短歌の記号を塗り潰しなさい。

出題の趣旨

- ・ 文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをもつこと
- ・ 文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉えること
- ・ 文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えをもつこと
- ・ 封筒の書き方を理解して書くこと

急速に情報化が進展する社会の中では，目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を身に付ける必要がある。そのために，新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり，文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりすることが大切である。また，文章の内容や構造を理解して必要な情報を取り出したり，多様な情報に触れる中で自分が興味のある話題に出合い，既存の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりすることも重要である。

本問では，日本の「弁当」に関する記事と，中学生が創作した短歌などが掲載された【全国中学生新聞】を題材として取り上げた。文章の構成や展開，表現の仕方について考えたり，「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている弁当の魅力や文章の展開に即して捉えたりすることを求めている。また，中学生が創作した短歌を読み，情景や心情を想像しながら感じたことや考えたことを書いたり，投稿を封筒で郵送するという設定の下，字形や配列に注意しながら封筒に名前と住所を書いたりすることを求めている。

なお，設問二は，これまでの全国学力・学習状況調査【中学校】国語において，第1学年「C読むこと」(1)イの「文章の中心的部分と付加的部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」に係る出題について，文章の展開に即して複数の情報を整理し，内容を捉えることなどに課題が見られたことを踏まえて出題したものである。設問四は，平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A75（正答率74.2%）において，はがきの書き方を理解して書くことに課題が見られたことを踏まえて出題したものである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 C 読むこと

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

〔第2学年〕 C 読むこと

イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。

設問一

趣旨

文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 C 読むこと

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

《自分の考えの形成》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	1	1と解答しているもの	19.0	
	2	2と解答しているもの	64.6	◎
	3	3と解答しているもの	7.5	
	4	4と解答しているもの	8.7	
	99	上記以外の解答	0.1	
	0	無解答	0.1	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型1, 4の反応率の合計は27.7%である。このように解答した生徒は、文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりすることに課題がある。「日本の文化の例」が「複数」示されていることや、「外国語の辞書に載っている言葉」が示されていることを捉えることはできているが、これは「今後の掲載の見通しをもつことができるように」するためのものであることなどが理解できていないものと考えられる。

○ 解答類型3について、このように解答した生徒は、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」に書かれている内容を的確に捉えたり、この部分と文章全体との関係を考えたりすることに課題がある。一般的には、新聞記事の冒頭に要約を示す書き方もあるが、「〈シリーズ〉再発見！ 日本の文化」、「本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたって、その魅力を紹介していきます。」などに着目すると、この部分は記事の要約ではなくシリーズの見通しを示したものであることが分かる。文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをもつためには、部分的な叙述だけでなく、文章全体を読んだ上で考える必要がある。

3. 学習指導に当たって

文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる

説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えたり、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲な述べ方、さらに中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係などの文章の表現の仕方について考えたりすることが大切である。文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する必要がある。その際、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導することが重要である。

指導に当たっては、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1三に係る授業アイデア例「表現の技法を用いて、読書についての標語を作る」、平成28年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1三に係る授業アイデア例「係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語－4「文章と図表との関係を読み解こう」、国語－9「子育てに関する情報を比べてみよう」、国語－13「『部活動新聞』を作ろう」も参考になる。

(参照)

「平成26年度【中学校】授業アイデア例」P. 9～P. 10

「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

「言語活動事例集【中学校版】」P. 25～P. 26, P. 35～P. 36, P. 43～P. 44

設問二

趣旨

文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 《文章の解釈》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答		
1	二	1	2, 5と解答しているもの	62.2	◎
	2	一つまたは複数選択する中で、2だけ正しく解答しているもの	12.6		
	3	一つまたは複数選択する中で、5だけ正しく解答しているもの	2.9		
	99	上記以外の解答	22.2		
	0	無解答	0.1		

2. 分析結果と課題

- 解答類型2は、選択肢2を選ぶことはできているが、選択肢5を選ぶことができていないものである。このように解答した生徒は、第二段落の「いろいろな料理が詰められていること」が、具体的には「主食、主菜、副菜などが収まって」いる状態であり、それによって、「栄養バランスのよい食事をとることができる」という弁当の魅力を捉えることはできているが、第三段落の「様々なデザインの弁当箱を好みに応じて選べること」も「弁当の魅力の一つ」であることを捉えることができていないものと考えられる。ここでは、「海外に広がる弁当の魅力」についての文章全体を読んだ上で、複数の弁当の魅力を的確に捉える必要がある。

- 解答類型2, 3, 99の中で、選択肢1を選んだ生徒は、全体の5.7%である。このように解答した生徒は、第五段落の「インターネットを利用して」などの部分的な表現を捉えることはできているが、「インターネットを利用して、弁当の作り方や詰め方について交流する人が増えてい」という内容を捉えることができていないものと考えられる。

選択肢3を選んだ生徒は、全体の15.5%である。このように解答した生徒は、第一段落の「ボックスランチ」、「カスクルート」、「戸外に持ち出して食べる」などの部分的な表現を捉えることはできているが、「アメリカのボックスランチやフランスのカスクルートなど、日本の弁当のように戸外に持ち出して食べることのできる食事」という内容を捉えることができていないものと考えられる。

選択肢4を選んだ生徒は、全体の14.9%である。このように解答した生徒は、第二段落の「いろいろな料理が詰められている」などの部分的な表現を捉えることはできているが、第四段落の「『曲げわっぱ』という木製の弁当箱は、木が湿気を吸うので料理が腐りにくく、食べ物の風味が保たれる」という内容を捉えることができていないものと考えられる。

- 解答類型99の中で、「2と3と5」と解答した生徒は、全体の8.1%、「2と4と5」と解答した生徒は、全体の7.4%である。

3. 学習指導に当たって

文章の展開に即して情報を整理し、内容的に理解する

説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉え、内容的に理解するように指導することが大切である。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。具体的には、第1学年「C 読むこと」(2)イの「文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。」、第2学年「C 読むこと」(2)イの「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。」、第3学年「C 読むこと」(2)イの「論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。」などの言語活動を通して指導することが効果的である。

例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するなどの学習活動が考えられる。その際、小学校での学習を踏まえ、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むように指導することも大切である。

指導に当たっては、平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B²一、三に係る授業アイデア例「文章の内容を『Q&A集』の形式で紹介する。」、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁶一に係る授業アイデア例「文章の展開に即して内容を捉えることができるようにする。」、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B¹三に係る授業アイデア例「目的に応じて説明的な文章を読む」も参考になる。

(参照)

「平成23年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

「4年間のまとめ【中学校編】」P. 96～P. 97

「平成24年度【中学校】報告書」P. 148

「平成30年度【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

設問三

趣旨

文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 C 読むこと

オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。 《自分の考えの形成》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
①	三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 内山さんの短歌, 森川さんの短歌, 松田さんの短歌の中からいずれか一首を選んで, その記号を塗り潰している。 ② 選んだ短歌の中の言葉を適切に取り上げて, 想像できる情景や心情を書いている。 ③ ②で想像した内容について, 感じたことや考えたことを具体的に書いている。		
		(正答例) ・ A 「新しい」と「背筋伸ばして始まりを待つ」という表現から, 新年度の最初の授業の始まりを, 期待と不安とが混ざった気持ちで待っている様子が想像できます。新年度を迎えると, 皆気持ちを引き締めたり決意を新たにしたりするものです。 ・ B 「玄関の鏡の前」という言葉から, 家を出る前の様子であることが想像できる。また, 「もう一度」という言葉から, 何度も服装などを整えて, 気持ちよく登校したいと思っていることが感じられる。私も登校する前に毎朝鏡を見るので, この短歌の登場人物の身だしなみを気にする気持ちがよく分かる。 ・ C 「春風がいつもの道を駆け抜ける」から, 暖かな春の風が吹く通学路の情景が思い浮かびます。「駆け抜ける」という擬人法を用いた表現が, その情景を生き生きとしたものにしていきます。		
	1	条件①, ②, ③を満たして解答しているもの	91.3	◎
	2	条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの	2.0	
	3	条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	1.5	
	99	上記以外の解答	3.5	
0	無解答	1.6		

2. 分析結果と課題

- 解答類型1について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

・A

「新しい」と「背筋伸ばして始まりを待つ」から、中学生になって胸をどきどきさせながら授業が始まるのを待っている様子が目に浮かびます。これから始まる中学校生活に胸を躍らせながら受けた最初の授業のことは、中学校三年生になった今でも覚えています。

・B

森川さんの短歌では、「玄関の鏡の前」と言っているので、学校へ行く準備を全て終え、家を出る直前の様子であることが分かります。「前髪笑顔ボタン笑顔と」から、今日も一日頑張るぞという思いを読み取ることができます。私も、朝学校に行く前に森川さんのように鏡を見て気持ちを引き締めることがあります。

・C

「春風」、「駆け抜ける」という表現から、春風が人々の間を勢いよく吹き抜けたり、人々を後ろから押ししたりしている情景が想像できる。私は、この情景から春風に押されている人々は、よい気分になって学校や職場に行くのだろうと思い、うれしい気持ちになった。

このように解答した生徒は、選んだ短歌の中の言葉を適切に取り上げ、その言葉から想像できることと、下線部のように、想像した内容について自分なりに感じたことや考えたことを書くことができている。いずれも、自分が短歌の中のどの言葉に着目したのかが分かるように示しながら、想像できる情景や心情を書いた上で、自分の体験と関連付けるなどして感じたことや考えたことをまとめている。指導に当たっては、同じ短歌を選んだ生徒同士でグループを作り、書いたものを互いに読み合い、どの表現からどのようなことを想像したのかや、どのようなことを感じたり考えたりしたのかについて交流し、それを基にして自分の考えを更に広げたり深めたりするように促すことなどが考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ

文学的な文章を読む際には、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方をもちょうに指導することが引き続き大切である。その際、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくように指導することが重要である。また、文章に示されている書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして、読み手が自分の問題として捉えることができるように指導することも重要である。

例えば、短歌を読み、互いの考えを交流するなどの学習活動が考えられる。その際、それぞれがどの表現に着目しているのかを明確に示した上で、同じ表現に着目して同じような考えをもっている、同じ表現に着目して異なる考えをもっている、異なる表現に着目して同じような考えをもっている、異なる表現に着目して異なる考えをもっていることなどに留意して交流し、それぞれの考えを広げたり深めたりするように指導することが効果的である。このように、他人とものの見方や感じ方に違いがあることを学んだり、新しい発見をしたりするなど、考えの広がりや深まりを生む授業を展開することも大切である。

指導に当たっては、平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B³に係る授業アイデア例「これから読みたい本のブックリストを作成し、本を読む。」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B²に係る授業アイデア例「星新一の作品を読んで、感想交流会を開こう」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語－3「『蜘蛛の糸』を朗読しよう」、国語－8「登場人物のその後の生き方を考える（『夏の葬列』）」、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁸「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くすることができるかどうかをみる。」も参考になる。

(参照)

「平成23年度【中学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

「4年間のまとめ【中学校編】」P. 98～P. 99

「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P. 11～P. 12

「言語活動事例集【中学校版】」P. 23～P. 24, P. 33～P. 34

設問四

趣旨

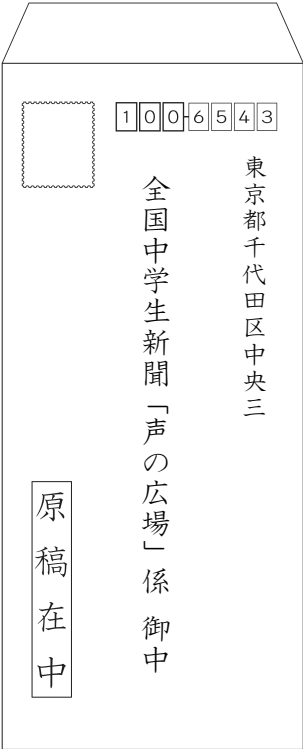
封筒の書き方を理解して書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
1	<p>四 (正答の条件)</p> <p>次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 投稿先の名前と住所の正しい内容を楷書で書いている。</p> <p>② 投稿先の名前に敬称を適切に付けて封筒の中央に書き、住所を封筒の右側に書いている。</p> <p>③ 投稿先の名前を住所より大きく書いている。</p> <p>④ 縦書きで書いている。</p> <hr/> <p>(正答例)</p> <div data-bbox="646 638 949 1384" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  <p>100-6543</p> <p>東京都千代田区中央三</p> <p>全国中学生新聞「声の広場」係 御中</p> <p>原稿 在 中</p> </div>		
1	<p>条件①, ②, ③, ④を満たして解答しているもの</p> <p>* 投稿先の名前について、「係」を省略して解答しているものも正答とする。また、投稿先の住所について、「千代田区」まで省略して解答しているものも正答とする。</p>	15.6	◎

2	条件①, ②, ④を満たして解答しているもの (例)	39.1	○
3	条件①, ④を満たし, 条件②について, 投稿先の名前や住所を書く位置が大きく偏っているもの (例)	2.8	○
4	条件②, ④を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	16.7	
99	上記以外の解答	20.5	
0	無解答	5.5	

2. 分析結果と課題

- 平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁷五では、相手の名前と住所、自分の名前と住所の位置を逆に書くなどの誤答が見られた。これを踏まえて、封筒の書き方を理解して書く問題を出題したところ、正答率は57.4%（解答類型1 15.6%，解答類型2 39.1%，解答類型3 2.8%）であったことから、依然として課題があると考えられる。

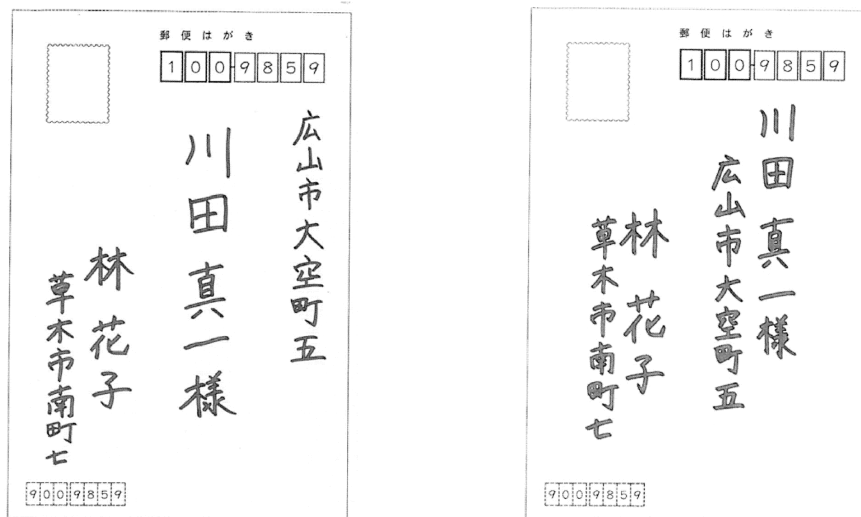
(参考)

平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁷五の分析結果と課題は次のとおりである。

分析結果と課題

- 本設問は、はがきの表書きを書くものである。正答率は74.2%である。
- 誤答についてみると、解答類型9の反応率が17.9%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(誤答例)



このように解答した生徒は、問題に示されている情報をはがきの表書きの書き方に当てはめて書くことができていない。

- 解答類型2については、「投稿先の名前を住所より大きく書いている。」という条件を満たしていないものである。指導に当たっては、硬筆を使用する書写の学習において、相手の名前は敬称を付けて中央に大きく書き、住所は右側に名前よりやや小さく書くなど、紙面全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てることに留意するように促すことなどが考えられる。

- 解答類型4について、具体的な例としては、投稿先の**名前**や**住所**を書く際に、誤字や脱字のあるもののほか、以下のようなものがある。



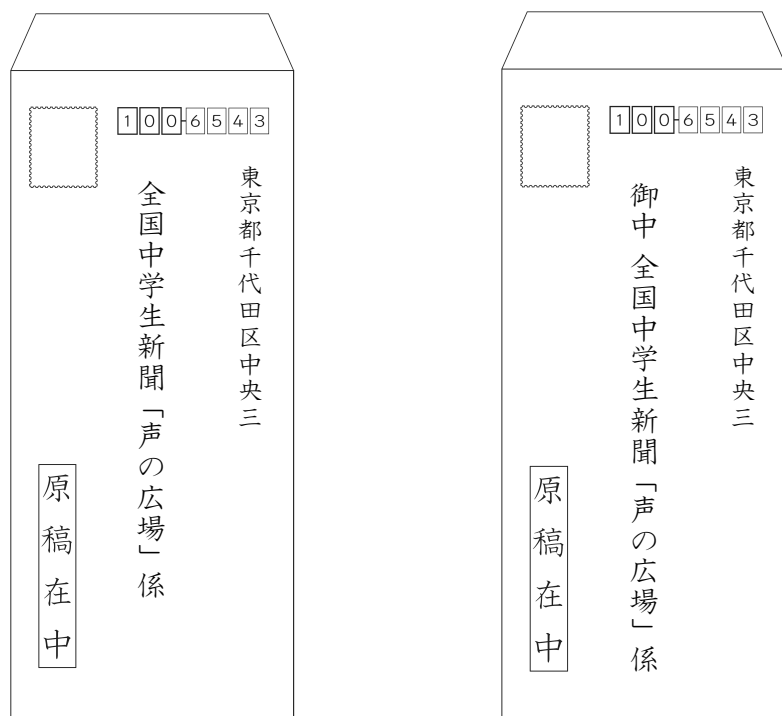
このように解答した生徒は、投稿先の**住所**にFAX番号やメールアドレスなどを含めて書いている。

- 解答類型99について、具体的な例としては、以下のようなものがある。



このように解答した生徒は、投稿先の**名前**と**住所**の位置を逆に書いている。

(例)



このように解答した生徒は、投稿先の**名前**に敬称を付けずに書いたり、敬称を誤った位置に付けて書いたりしている。

3. 学習指導に当たって

手紙の基本的な形式を理解し、文字の大きさや配列に注意して書く

手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要である。その際、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが大切である。

例えば、第1学年「B 書くこと」(2)ウの「行事等の案内や報告をする文章を書くこと」、第2学年「B 書くこと」(2)ウの「社会生活に必要な手紙を書くこと。」などの言語活動を通じた学習や、総合的な学習の時間における学習との関連を図って指導することが考えられる。手紙の種類としては、近況を伝える手紙、何かを依頼する手紙、お礼の気持ちを伝える手紙などがある。手紙を書く相手を具体的に定め、郵便等を通じて実際に手紙のやり取りを行わせることも効果的である。その際、表書きの宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式を押さえることなど、小学校での学習を想起するように指導することも大切である。

なお、日常の生活においても、意識的に書写の学習の成果を生かすように指導する必要がある。例えば、メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物といった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体で書くなど、書写の能力を広く生活に役立てようとするような態度を育てることが大切である。また、書写の学習で培った文字を書くことに対する意識を、学校における他の教科等においても積極的に発揮し、日常の文字を正しく整えて書くことができるようにすることも重要である。

指導に当たっては、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語－2「学校からの『お知らせ』を書き換えよう」、国語－7「心に届けたい言葉を添えて年賀状を書く」も参考になる。

(参照)

「言語活動事例集【中学校版】」P. 21～P. 22, P. 31～P. 32

※出典等

【全国中学生新聞】は、事業構想大学院大学出版部「ニッポン流、BENTOスタイル」(『月刊事業構想 2月号』2015年2月 事業構想大学院大学出版部)、ジョエル・ロブション『ジョエル・ロブションの美味しいおべんとう』(2015年4月 ATパブリケーション)、やまだようこ「ものづくりをもの語る」(『こころが育つ環境をつくる 発達心理学からの提言』2014年3月 新曜社)、公益財団法人ニッポンドットコムウェブページなどを参考にした。

国語 2 話し合いをする (文化祭)

場面②

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも赤さづらいと感じたり、段差に気付かず驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん 山下さん

ネットにそのようなニュースが出ていますね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと。別の表現にしてはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけないですね。以前から、私も気になっていました。

場面③

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん 山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでいいと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなことがありません。

A

場面①

〔話し合いの一部〕

〔議題〕

地域とのつながりを大切にした文化祭にするために

一 生徒会が地域で行っていることについての展示

・ 高齢者向けの施設での交流会の様子

・ 地域の清掃活動の様子

二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

倉田さん 西野さん 山下さん

「生徒会が地域で行っていることについての展示」はこの二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

〔2〕 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にした文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、〔話し合いの一部〕です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(場面①から場面③は、連続した場面です。)

一 場面①における山下さんの発言は、話し合いの中でどのような役割を果たしていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 これまでの話し合いで出されていない考えを補足するとともに、これからの話し合いの意義を確かめる役割。
- 2 これまでの話し合いの改善点を指摘するとともに、話し合ったことで生じた疑問を確かめる役割。
- 3 これまでの話し合いの仕方を振り返るとともに、これからの話し合いの仕方の留意点を明らかにする役割。
- 4 これまでの話し合いの結論を示すとともに、これから話し合う内容を明らかにする役割。

二 場面③の——線部「賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。」という倉田さんの発言について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 場面③における西野さんの発言の一部を具体的に言い換えて確認しながら、自分の考えを示している。
- 2 場面③における西野さんの発言の一部を取り上げ、様々な考えを出し合うように周囲に促している。
- 3 場面③における西野さんの発言の要旨をまとめながら、話し合いを通して導かれた結論を述べている。
- 4 場面③における西野さんの発言と他の人の発言との相違点を示し、議論の要点を確認している。

三 場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていなことが」という自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていなことが」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていなことが」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--

出題の趣旨

- ・ 話合いの話題や方向を捉えること
- ・ 相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること
- ・ 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと

話合いは、情報の交換や意見の調整を通して新たな価値を創造したり、一定の合意を形成して物事を決めたりすることを目的として行われる。そのため、話合いをする際には、話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりしながら、常に自分の考えと比較し、考えをまとめていく必要がある。その際、相手の理解の状況を踏まえ、分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことも大切である。

本問では、地域とのつながりを大切にした文化祭にするために、生徒が取り組むことについて話し合っている場面を設定した。話合いの話題や方向を捉えたり、話合いの参加者に分かりやすく伝わる表現について考えたりするとともに、提案された内容で未解決の部分に気づき、それを解決する具体的な自分の考えを適切に表現することを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。

設問一

趣旨

話合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。 《話し合うこと》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
②	1	1と解答しているもの	5.5	
	2	2と解答しているもの	6.1	
	3	3と解答しているもの	7.5	
	4	4と解答しているもの	80.7	◎
	99	上記以外の解答	0.0	
	0	無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1～3の反応率の合計は19.1%である。このように解答した生徒は、山下さんの『生徒会が地域で行っていることについての展示』は、この二つにします。」という発言が、これまでの話合いの結論を示し、「次は、『展示や発表を見に来てくださる方への配慮』について考えましょう。」という発言が、これから話し合う内容を明らかにする役割を果たしていることが理解できていないものと考えられる。

また、選択肢1～3のそれぞれの内容は、話合いを効果的に進めるために必要なものであるが、具体的にどのような場面でのどのような発言を指すのかが理解できていないものとも考えられる。選択肢1については、話合いが停滞している場面などにおいて、話合いを進展させるためにこのような役割を果たす発言をすることがある。選択肢2については、様々な意見や疑問が整理されずに話合いが進められている場面などにおいて、目的に沿った話合いにするためにこのような役割を果たす発言をすることがある。選択肢3については、話合いの仕方を相互に評価し合う場面などにおいて、話合いを効果的に進めるためにこのような役割を果たす発言をすることがある。指導に当たっては、話合いの中で、目的や場面に応じて各選択肢で示したような役割を果たす発言を意識するように促すことも考えられる。

3. 学習指導に当たって

参加者全員が話合いの話題や方向を捉えて話し合う

話合いをする際には、誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかを理解し、今は何について話し合っているのかを捉え、それに応じて話すように指導することが引き続き大切である。

例えば、一定の合意を形成して物事を決めることを目的とした話合いを行うなどの学習活動が考えられる。その際、話合いの流れを捉えるために、話の要点を各自でメモしたり、移動黒板などを用いて話合いの過程を記録したりするなどの工夫について考えるように指導することも効果的である。

なお、国語科で育成するこのような言語能力については、各教科等における話合いを取り入れた言語活動の更なる充実に資するものとなるよう、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることも大切である。

指導に当たっては、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B¹三に係る授業アイデア例「対談を読んで考えたことを基に座談会を行う。」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A¹二に係る授業アイデア例「話合いの動画を見ながら、司会の役割を話し合う」も参考になる。

(参照)

「平成24年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

「平成24年度【中学校】報告書」P. 188～P. 189

「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P. 7

設問二

趣旨

相手に分かりやすく伝わる表現について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

ウ 話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，相手に分かりやすい語句の選択，相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。 《話すこと》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
②	二			
	1	1と解答しているもの	70.1	◎
	2	2と解答しているもの	8.7	
	3	3と解答しているもの	17.8	
	4	4と解答しているもの	3.0	
	99	上記以外の解答	0.0	
0	無解答	0.3		

2. 分析結果と課題

- 解答類型2～4の反応率の合計は29.5%である。このように解答した生徒は，倉田さんの発言が，直前の西野さんの発言を受けて自分の考えを述べたものであることを捉えることができていないものと考えられる。倉田さんは，西野さんの提案に対する自分の立場を明らかにした後，西野さんの発言の一部を具体的に言い換えながら自分の考えの理由を添えて発言している。また，解答類型3の生徒は，倉田さんの発言が，「それに，例年，展示や発表の場所が校内に点在しているので，見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。」という西野さんの発言の要旨をまとめたものであると捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

相手に分かりやすく伝える表現を用いて話す

自分の考えを分かりやすく相手に伝えるためには、話合いの話題や方向を捉えた上で、話題に対する自分の立場や考えを明確にするとともに、そのような立場や考えであること理由について話すように指導することが大切である。その際、話合いの参加者の興味・関心、情報量などを考慮しながら、相手の発言を具体的に言い換えたり、他者同士の発言を結び付けて話したりするように指導することも重要である。

例えば、本設問においては、倉田さんは「校内に点在している」という西野さんの発言を受け、その内容を参加者全員が確認できるように「美術室や体育館など校内のあちこちにある」と具体的に言い換えて話している。相手の発言を具体的に言い換えることについては、相手の発言を自分がどのように受け止めているかを示したり、参加者全員の理解を促したりするなどの働きがあることを生徒自身が実感できるように指導することが大切である。

指導に当たっては、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A7-1に係る授業アイデア例「名インタビュアーになろう」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語-1『「体験入部」の報告をしよう」も参考になる。

(参照)

「平成29年度【中学校】授業アイデア例」P. 3

「言語活動事例集【中学校版】」P. 19～P. 20

設問三

趣旨

話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。 《話し合うこと》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
② 三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして書いている。 ② ①で示した「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を書いている。 ③ 実際に話すように書いている。		

	(正答例)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかについてです。私は、文化祭に来てくださる方に対しては、「ここで靴を脱いでお上がりください。」のように直すと思います。皆さんはどう思いますか。 ・ 「土足禁止」という表現をどのように直すのかについては、「土足のまま上がることは禁止しています。」とするのがよいと思います。 ・ 校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかが決まっています。「禁止」を言い換えた言葉を一人ずつ挙げてみませんか。 		
1	条件①, ②, ③を満たして解答しているもの	60.9	◎
2	条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	
3	条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	9.3	
4	条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	0.6	
99	上記以外の解答	20.4	
0	無解答	8.7	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「土足禁止」という掲示物の表現についてまだ話し合っていない。 ・ 「土足禁止」という表現の修正について、具体的な案がまだ出されていません。

このように解答した生徒は、話合いの流れを踏まえて「どうするか決まっていないうこと」とは何かを指摘することはできているが、それを解決する具体的な案を示すことができていない。ここでは、「土足禁止」という掲示物の表現について、「展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくない」という西野さんの発言や、「どのような表現に直すのかについては、話し合わないといけません」という山下さんの発言を踏まえ、どのような課題があるのかを明確にした上で、それを解決する具体的な案を示す必要がある。

- 解答類型99について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「段差に気を付けてください。」という掲示物の表現をどうするのかをまだ決めていません。 ・ 具体的な経路の例についても考えましょう。

このように解答した生徒は、話合いの話題や方向を適切に捉えることができていない。既に結論の出ている「段差への注意を促す掲示物」や、「展示や発表の場所が決まってから検討」することになった「具体的な経路の例」について、今この場で話し合う必要があると捉えているものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつ

話し合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切である。その際、必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるように指導することも重要である。

例えば、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。その際、話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながらか進めるように指導することも効果的である。

指導に当たっては、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B¹三に係る授業アイデア例「対談を読んで考えたことを基に座談会を行う。」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A¹二に係る授業アイデア例「話し合いの動画を見ながら、司会の役割を話し合う」も参考になる。

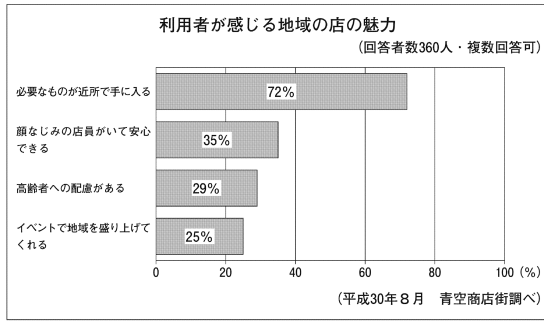
(参照)

「平成24年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

「平成24年度【中学校】報告書」P. 188～P. 189

「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P. 7

国語 3 意見文を書く (地域の店)



【広報紙の一部】

③ 青木さんは、「地域と私たちのつながり」というテーマで意見文を書いていきます。次は、青木さんが書いた「意見文の下書き」と、読み返したあと新たに取材して見つけた、青木さんが住んでいる地域の「広報紙の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選べる上、重い荷物を持たなくてよいためだ。母も「便利になった」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではの利点だ。しかし、**①**皆が買いたい物の多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいつの間になくなってしまおうだろうか。

地域の店はこれからは必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買物にはない**魅力**があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で使っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品を手にとって選ぶことができるのは、地域の店の魅力だ。

②我が家でも買いたい物を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をもっと見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。

① 青木さんは、読み手にとってより分かりやすい文章にするために、「意見文の下書き」の**①**のところに言葉を入れて書き直すことにしました。書き加える言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 たとえ我が家がインターネットを利用して、
- 2 たとえ我が家が地域の店を利用しなくても、
- 3 いくらインターネットが便利でも、
- 4 いくら地域の店が便利でも、

② 青木さんは、「意見文の下書き」の「線部「魅力」の具体例に自分の体験を挙げるだけでは足りないと考え、「広報紙の一部」にある情報を用いて**②**のところに文章を書き加えることにしました。あなたなら、どのような文章を書き加えますか。次の書き出しに続けて、「広報紙の一部」を見ている人にも分かるように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

書き出し

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

出題の趣旨

- ・ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること
- ・ 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと

意見文を書く際には、自分の考えの根拠を明確にして書く必要がある。また、説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠として、複数の実例やデータなどを示すことが大切である。記述に当たっては、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をしたり、読み手に分かりやすい説明を加えたりすることも重要である。

本問では、意見文の下書きを書く場面を設定した。より分かりやすい文章にするために論の展開にふさわしい言葉を書き加えたり、説得力のある意見文にするために集めた資料を基にして根拠を補ったりすることを求めている。

なお、設問二は、「4年間のまとめ【中学校編】」において、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があると分析していること、及び平成28年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語B²二(1)・(2)（正答率51.5%・64.4%）において、目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことに課題が見られたことを踏まえて出題したものである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 B 書くこと

イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

設問一

趣旨

書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。 《推敲》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	—	1	1と解答しているもの	1.8	◎
		2	2と解答しているもの	3.3	
		3	3と解答しているもの	87.6	
		4	4と解答しているもの	6.8	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1, 2, 4の反応率の合計は11.9%である。このように解答した生徒は、第一段落の前半では、インターネットの便利さについて述べ、第二段落では、地域の店が必要であることを述べており、これらの内容をつなぐために、「しかし、皆が買い物の多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいったいどうなってしまうのだろうか。」という一文があることなど、文章の構成や展開が理解できていないものと考えられる。

解答類型1, 2の生徒は、「たとえ我が家がインターネットを利用しても」、「たとえ我が家が地域の店を利用しなくても」の意味や前後の内容とのつながりが理解できていないものとも考えられる。また、解答類型4の生徒は、「いくら地域の店が便利でも」の意味や前後の内容とのつながりが理解できていないものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

伝えたい事柄が読み手に分かりやすく伝わる表現になっているかどうかを検討する

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くように指導することが引き続き大切である。また、読み手が文章を読む意図や目的を意識して推敲したり、書いた文章を互いに読み合い、題材の捉え方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べるなど、観点を明確にして交流したりすることも重要である。

例えば、目的に応じて意見を述べる文章を書くとともに、書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方を確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、第1学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)との関連を図り、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めることができるように指導することや、第1学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」(エ)との関連を図り、それぞれの単語のもつ文法的な役割とともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどについて理解を深めることができるように指導することも有効である。

設問二

趣旨

伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 B 書くこと

ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

《記述》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
3	二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【広報誌の一部】にある情報を地域の店の「魅力」の具体例として用いて、【広報誌の一部】を見ていない人にも分かるように正確に書いている。 ② 「また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート『利用者が感じる地域の店の魅力』の結果からも分かることがある。例えば、」に適切に続くように書いている。		
		(正答例) ・ (また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、) 回答者全体の七十二パーセントが挙げている「必要なものが近所で手に入る」ことも地域の店の魅力だ。(解答類型1) ・ (また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、) 「顔なじみの店員がいて安心できる」という意見が三十五パーセントある。インターネットでの買い物とは異なり、店員と直接顔を合わせたり会話をしたりしながら買い物を楽しめることも、地域の店の大きな魅力であると考えられる。(解答類型2) ・ (また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、) 約三分の一人が「高齢者への配慮がある」と感じており、超高齢社会を支える大切な役割が地域の店にあるのだと思う。(解答類型2)		
	1	条件①, ②を満たして解答しているもの	18.3	◎
	2	条件①, ②を満たし、かつ条件①で用いている情報を基に、自分の考えを加えて解答しているもの	59.7	◎
	3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.3	
	4	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	12.1	
	99	上記以外の解答	0.9	
	0	無解答	7.7	

2. 分析結果と課題

- 平成28年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語B[2]二(1)・(2)では、「目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみる」問題（正答率(1) 51.5%、(2) 64.4%）に課題が見られた。具体的には、グラフや表の中から必要な情報を取り出すことはできているが、自分が伝えたいこととの関係を考えて書くことができていないものなどが多く見られた。また、「4年間のまとめ【中学校編】」においては、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があると指摘している。

本設問は、上記の課題を踏まえて出題したものである。正答率は、78.0%（解答類型1 18.3%、解答類型2 59.7%）であった。今回の調査を見る限り、本設問の【広報誌の一部】のように、根拠として用いる情報がある程度限定された場合であれば、自分が伝えたいことについて、資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くことができる（解答類型1, 2）と考えられる。しかし、取り出した情報を基に自分の考えを加えて書く（解答類型2）など、自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くことについては課題があると考えられる。

- 解答類型1について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・（また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、）「顔なじみの店員がいて安心できる」が三十五パーセント、「高齢者への配慮がある」が二十九パーセントだった。このような魅力もあることが分かった。

このように解答した生徒は、【広報誌の一部】にある情報を地域の店の「魅力」の具体例として用いて、【広報誌の一部】を見ていない人にも分かるように正確に書くことができている。ただし、次の下線部のように、取り出した情報を基に自分の考えを加えて書いたものと比較し、どちらがより分かりやすいかを検討するように指導することも考えられる。

- ・（また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、）「顔なじみの店員がいて安心できる」が三十五パーセント、「高齢者への配慮がある」が二十九パーセントだった。インターネットの買い物では得られない、人との直接の関わりによる満足感も、地域の店の魅力だと考えられる。

なお、本設問で「書き出し」として示した「また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート『利用者が感じる地域の店の魅力』の結果からも分かることがある。」については、根拠として用いる情報の出典の示し方を例示したものである。指導に当たっては、この部分も含めて、どのように書くと読み手に分かりやすいのかを検討するように促すことも考えられる。

- 解答類型 2 について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、)七十二パーセントの人が「必要なものが近所で手に入る」ことを挙げている。インターネットだと、必要なものを注文してから届くまでに少し時間がかかるが、地域の店なら思い付いたときにすぐに買いに行くことができる。これも地域の店ならではの魅力だ。

このように解答した生徒は、【広報誌の一部】にある情報を地域の店の「魅力」の具体例として用いて、【広報誌の一部】を見ていない人にも分かるように正確に書くとともに、取り出した情報を基に自分の考えを加えて書くことができている。具体的には、「必要なものが近所で手に入る」という意見が72%あるという【広報誌の一部】の情報を基に、下線部の自分の考えを加えて解答している。

- 解答類型 4 について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、)「イベントで地域を盛り上げてくれる」という項目を選んだ人が二十五パーセントしかいないことだ。

このように解答した生徒は、【広報誌の一部】にある情報を地域の店の「魅力」の具体例として用いて書いていない。読み取った情報を目的や意図に応じて活用することに課題がある。

(例)

- ・ (また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、) 特定の日にはしか出回らないものが買えるなど、インターネットにはない魅力がある。

このように解答した生徒は、【広報誌の一部】にある情報を用いて書いていない。読み手に分かりやすいように根拠を明確にして書くことに課題がある。

3. 学習指導に当たって

自分の考えが、読み手に分かりやすく伝わるように書く

説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠を明確にして書くように指導することが大切である。その際、自分の考えを支える根拠として、複数の実例や専門的な立場からの知見などを示すように指導することも重要である。

例えば、課題に沿って文章や図表などから必要な情報を根拠として取り出して、自分の考えを書くなどの学習活動が考えられる。その際、取り出した情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討するとともに、読み手に分かりやすく伝わるように、必要に応じて取り出した情報について自分なりの考えを加えるように指導することが大切である。また、問題や課題などについて述べる段落、集めた材料などについて分析する段落、それらを基に自分の考えや意見を述べる段落など、段落の役割を考えて文章を構成するように指導することも重要である。その際、第1学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」(エ)との関連を図り、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意するように指導することも有効である。

指導に当たっては、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B²三に係る授業アイデア例「説明的な文章を読んで、質問に答えよう」、平成28年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⁴二に係る授業アイデア例「要望する文章を書こう」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語-12「高等学校のパンフレットを批評する文章を書こう」も参考になる。

(参照)

「平成26年度【中学校】授業アイデア例」P. 11～P. 12

「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P. 3

「言語活動事例集【中学校版】」P. 41～P. 42

国語 4 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

4

私たちは、話したり書いたりする際に、「インターネット」のことを「ネット」というなど、語の一部を省いて表現することがあります。語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 何の話をしているのかについて互いに分かっている場合には、語の一部を省いた表現の使用で済むことがある。
- 2 どの年代の人にも正確に理解してもらうためには、できるだけ多くの語を、語の一部を省いた表現に直すとよい。
- 3 語の一部を省いた表現が、伝えたいことは異なる意味で受け取られそうな状況では、その表現を用いない方がよい。
- 4 語の一部を省くことが一般的でない表現の場合でも、語の一部を省いた表現を様々な場面で用いる方がよい。

出題の趣旨

- ・ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること

語感を磨き語彙を豊かにし、多様な語句を適切に活用するためには、それぞれの語句が話や文章の中でどのように使用されているかや、自分が理解したり表現したりするときどのように用いればよいかについて考えることが大切である。その際、同じ事物や思いを表していても、場面や状況によって表現が異なる場合があることに着目することも重要である。

本問では、話したり書いたりする際に、「インターネット」のことを「ネット」という場合があることを例に挙げ、語の一部を省いた表現について、場面や状況に応じた適切な活用の仕方を考えることを求めている。

なお、本調査問題の①では【全国中学生新聞】の中で、②では【話し合いの一部】の中で、③では【意見文の下書き】の中で「インターネット」または「ネット」という表現の活用例を示している。これは、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「言葉の特徴やきまりに関する事項」などについては、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、単に知識として学習されるだけでなく、実際の言語活動の中で活用され、生きて働く力として身に付くことが求められていることを踏まえたものである。

設問

趣旨

語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ

(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
4	1	1, 3と解答しているもの	79.0	◎
	2	1または1と2, 1と4, 1と2と4と解答しているもの	9.3	
	3	3または2と3, 3と4, 2と3と4と解答しているもの	5.7	
	99	上記以外の解答	4.7	
	0	無解答	1.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2は、選択肢1を選ぶことはできているが、選択肢3を選ぶことができていないものである。このように解答した生徒は、語の一部を省いた表現の使用が可能であるのは、伝えたいことと異なる意味で受け取られない状況のときであることが理解できていないものと考えられる。例えば、「インターネット」のことを伝えたいときに、「ネット」と表現することで「網」など他の意味に受け取られる可能性がある状況では、語の一部を省かないで表現する必要がある。
- 解答類型3は、選択肢3を選ぶことはできているが、選択肢1を選ぶことができていないものである。このように解答した生徒は、語の一部を省いた表現の使用が可能であるのは、取り上げている内容について言葉の使い手と受け手とが互いに分かっている場合であることが理解できていないものと考えられる。例えば、「ネット」が「インターネット」を指していることを言葉の受け手が理解していないと考えられる場合は、「インターネット」と語の一部を省かないで表現したり、「ネット」が何を表すのかについて説明を加えた上で用いたりする必要がある。
- 解答類型2, 3, 99の中で、選択肢2を選んだ生徒は、全体の9.3%である。このように解答した生徒は、世代による言葉の違いについて理解できていないものと考えられる。
選択肢4を選んだ生徒は、全体の10.3%である。このように解答した生徒は、個人的なメモを取る場合やある特定の分野の人同士でやり取りする場合などに、語の一部を省くことが一般的ではない表現であっても、語の一部を省いて表現することがあることなどについて理解できていないものと考えられる。
- 解答類型99の中で、「2と4」と解答した生徒は、全体の3.0%である。

3. 学習指導に当たって

具体的な場面や状況に基づいて考える語句の指導の工夫

語感を磨き、語彙を豊かにするためには、事象や行為などを表す多様な語句を、目的や場面に応じて適切に使うことができるように指導することが大切である。

例えば、本調査問題の①～③で示したような実際の場面で、語の一部を省いた表現をはじめとする事象や行為などを表す多様な語句について、どのように用いるとよいのかを検討したり、用いる際に必要な配慮がないかを考えたりするなどの学習活動が考えられる。その際、新聞記事の中で、「ネット」ではなく「インターネット」と語の一部を省かないで表現しているのは、言葉の使い手のどのような意図によるものなのかや、係活動等での話合いの場面で、「インターネット」のことを「ネット」と表現しているのは、どのような理由によるもののかなど、具体的な場面や状況に基づいて考えるように指導することが重要である。また、実際に話したり書いたりする中で、言葉の受け手の状況を予測したり反応を確かめたりしながら、どのような表現を用いると、自分の伝えたいことがよりの確に伝わるのかを考えながら表現するように指導することも重要である。その際、第2学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」(ア)との関連を図り、話し言葉と書き言葉との違いなどについて理解を深め、言葉の特徴やきまりに気付いて自らの言語生活を高めることができるように指導することも有効である。

指導に当たっては、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⑧三に係る授業アイデア例「言葉を集め、言葉カレンダーを作ろう」、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⑨五に係る授業アイデア例「自分が使ってみたい語句についてスピーチをする」、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⑧三に係る授業アイデア例「自分だけの『語彙手帳』を基に、言葉を使いこなそう」も参考になる。

(参照)

「平成26年度【中学校】授業アイデア例」P. 8

「平成29年度【中学校】授業アイデア例」P. 4

「平成30年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

